

ふくしま心のケアセンター
地域アルコール対応力強化事業
(アルコール・プロジェクト)
令和2年度 報告書

一般社団法人福島県精神保健福祉協会
ふくしま心のケアセンター

目 次

1. アルコール・プロジェクトの概要.....	83
1) 地域アルコール対応力強化事業の目的	
2) 令和2年度活動方針	
3) アルコール・プロジェクトのメンバー	
2. 人材育成・研修	84
1) 令和2年度関係者向け研修会（WEBセミナー型）の開催	
2) 令和2年度南会津地域アルコール健康障害予防研修会への講師派遣	
3. アルコール家族教室	85
1) 福島県県北保健福祉事務所・福島市アルコール家族教室における講師及び協力	
2) 郡山市保健所アルコール家族相談における講師	
3) いわき市アルコール家族教室（カモミールの会）における講師	
4. その他	87
1) 広野町健康まつりににおけるブース出展	
2) アルコール関連問題に関するアンケートの実施	
3) 福島県精神保健福祉センター主催令和2年度アディクション関連問題に携わるスタッフのためのミーティングへの参加	
5. 課題と展望	89

1. アルコール・プロジェクトの概要

ふくしま心のケアセンター「アルコール・プロジェクト」は、福島県より委託された被災者の心のケア事業の一環として「地域アルコール対応力強化事業」を実施するために、平成 26 年 4 月に発足した。

1) 地域アルコール対応力強化事業の目的

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故による環境の変化や見通しが立たない避難生活等は、多くの県民に多種多様なストレス症状を引き起こしており、うつ傾向の割合の増加が見られている。また、訪問支援等を行っている支援者からは、飲酒問題が関係する相談や支援の難しさが報告されている。

このような背景から、地域の中でアルコール関連問題への取り組みを強化することを目的に、ふくしま心のケアセンター内にプロジェクトチームを設置し活動を行っている。プロジェクトチームでは、地域支援者の人材育成を通して、地域のアルコール関連問題への対応力強化を図ると共に、被災者への支援及び普及啓発を展開する。

2) 令和 2 年度活動方針

一次予防を中心に、二次・三次予防も念頭に置きながら事業を進める。研修会は引き続き節酒支援をテーマに、事例検討を交えながら実施し、支援者の理解と対応力を深める。その他、保健所等が実施するアルコール家族教室への協力、被災地の健康イベント等における啓発活動、自助グループ等の関係機関・団体と連携した活動を実施する。

3) アルコール・プロジェクトのメンバー

◎チームリーダー ○サブリーダー ※オブザーバー

前田正治（ふくしま心のケアセンター副所長・福島県立医科大学災害こころの医学講座 主任教授）

◎菅野寿洋（ふくしま心のケアセンター県北方部センター 主任専門員）

○佐藤 彩（ふくしま心のケアセンター基幹センター 専門員）

松島輝明（ふくしま心のケアセンター基幹センター 主任専門員）

平山真実（ふくしま心のケアセンター基幹センター 事務員）

佐竹美紀（ふくしま心のケアセンター県中・県南方部センター 専門員）

木原英里子（ふくしま心のケアセンターふたば出張所 専門員）

小野るみ（ふくしま心のケアセンターいわき方部センター 専門員）

米倉一磨（ふくしま心のケアセンター相馬方部センター センター長）

工藤慎吾（ふくしま心のケアセンター相馬方部センター 専門員）

※田崎みずほ（福島県保健福祉部障がい福祉課 保健技師）

※三瓶真美（福島県精神保健福祉センター 保健技師）

※大島洋和（医療法人 大島クリニック・ふくしま心のケアセンター顧問）

2. 人材育成・研修

1) 令和2年度関係者向け研修会（WEBセミナー型）の開催

令和2年度関係者向け研修会は、中通りと会津地方での全2回の開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の為、会場での開催を見合わせる事となり、WEBセミナーでの開催となった。

目的：住民の関心が高い“健康”や“生活習慣病”とアルコールの関連性に視点を置き保健指導の一環としての介入方法の基本を学ぶ。また、事例を通して具体的な節酒支援のスキルを身につけることを目的とする。

日時：令和2年8月4日（火）14：00～16：00

形式：WEBセミナー（使用システム：Zoom ウェビナー）

対象：被災者支援に携わる支援者、医療・保健・福祉従事者、関係機関の職員

参加者：参加申込者数 121 名、視聴者デバイス数 83 台（スタッフ含む）

内容：講演「生活習慣病と節酒（減酒）指導」

講師 独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

福田 貴博 先生

主催：一般社団法人 福島県精神保健福祉協会 ふくしま心のケアセンター

後援：福島県、公立大学法人 福島県立医科大学



2) 令和2年度南会津地域アルコール健康障害予防研修会への講師派遣

目的：南会津地域の保健・医療・福祉関係の支援者がアルコール問題に関して、依存症になる前の予防的な働きかけについて学び、依存症傾向である対象者へは適切な関わりを持つことができるよう対応方法を学ぶ機会とする。また、保健指導の介入方法の基本を学び、節酒支援のスキルを身につける。

日時：令和2年10月5日（月） 13:30～16:00

会場：御蔵入交流館 多目的ホール

対象：町村（節酒支援、依存症支援に関わる職員）、医療機関、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、保健福祉事務所、その他の関係機関職員

参加者：19 名

内 容：第 1 部 講話「節酒（減酒）指導を用いた支援について」

講師 ふくしま心のケアセンター

アルコール・プロジェクトリーダー 菅野 寿洋

第 2 部 講話「アルコール健康障害を持つ方への対応方法」

講師 ふくしま心のケアセンター

県北方部センター方部課長 松田 聡一郎

主 催：福島県南会津保健福祉事務所



3. アルコール家族教室

1) 福島県県北保健福祉事務所・福島市アルコール家族教室における講師及び協力

場 所：福島県県北保健福祉事務所

対 象：アルコール関連問題を抱える方の家族

日程	内容	参加者数
令和 2 年 7 月 16 日	CRAFT（クラフト）学習とミーティング	11 名

主 催：福島県県北保健福祉事務所障がい者支援チーム、福島市障がい福祉課

講 師：県中・県南方部センター主任専門員

2) 郡山市保健所アルコール家族相談における講師

場 所：郡山市保健所

対 象：アルコール関連問題を抱える方の家族

日程	内容	参加者数
令和 2 年 6 月 24 日	「どこまで（人に）関心をもつか」「人との距離のとり方」について意見交換	5 名

令和2年 7月29日	「CRAFT：CRAFT を用いたプログラムについて」	3名
令和2年 8月26日	「CRAFT：どんな問題か明確にしましょう」	5名
令和2年 9月30日	「CRAFT：暴力と安全第一とは」	5名
令和2年 10月28日	「CRAFT：より良いコミュニケーション」	2名
令和2年 11月25日	「CRAFT:より良いコミュニケーション」	2名
令和2年 12月23日	「CRAFT:うまくいかないことを中止しましょう」	2名
令和3年 1月27日	「CRAFT:うまくいかないことを中止しましょう」	3名
令和3年 2月24日	「CRAFT:家族自身の生活をより良くするために」	5名
令和3年 3月24日	「CRAFT:家族自身の生活をより良くするために」	6名

主 催：郡山市保健所

講 師：県中・県南方部センター主任専門員、アルコール・プロジェクトメンバー

3) いわき市アルコール家族教室（カモミールの会）における講師

いわき市アルコール家族教室「カモミールの会」は、当初令和2年7月から令和3年3月まで全8回の開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大の為、開催を見合わせる事となった。感染拡大が落ち着いた11月から開始となり、3月まで月1回、感染予防対策を行ったうえで、全5回実施することとなった。

場 所：いわき市総合保健福祉センター

対 象：アルコール関連問題を抱える方の家族

日程	内容	参加者数
令和2年 11月27日	CRAFT を用いたプログラムについて	5名
令和2年 12月11日	どんな問題か明確にしましょう	5名
令和3年 1月26日	暴力と安全第一とは	5名
令和3年 2月10日	より良いコミュニケーション①	3名
令和3年 3月5日	より良いコミュニケーション②	4名

主 催：いわき市保健所

講 師：県北方部センター方部課長、アルコール・プロジェクトメンバー

4. その他

1) 広野町健康まつりにおけるブース出展

広野町健康まつりにおいてブースを出展し、来場者にアルコール・パッチテストやパンフレットの配布を行い、適正飲酒の普及啓発を実施した。当日は、ふたば出張所の職員3名、アルコール・プロジェクトメンバー1名で運営を行った。

日 時：令和2年11月1日（日）10：00～14：00

場 所：二ツ沼総合公園

対 象：健康まつりに来場した町民等

内 容：アルコール・パッチテスト95名に実施・配布

主 催：広野町



2) アルコール関連問題に関するアンケートの実施

目 的：地域住民の健康増進に関して中心的な役割を担っている市町村保健師を対象にアンケートを実施し、アルコール関連問題の予防・介入についての実態を明らかにすると共に、今後の事業展開の参考資料とする。併せて、福島県アルコール健康障害対策推進計画の参考資料とする。

時 期：令和3年1月

対 象：福島県内59市町村の精神保健担当保健師

内 容：各自治体におけるアルコール関連問題の予防・介入等について

- ①アルコール関連問題を抱える本人もしくは家族等からの新規相談の程度
- ②アルコール関連問題の相談対応で困った経験の有無
- ③困った経験時の詳細と相談先
- ④アルコール関連の事業の実施状況
- ⑤アルコール関連問題の相談対応や普及啓発を行う上であるとよいもの
- ⑥希望の研修内容
- ⑦「ドリンク」というお酒の概念（単位）の認知度
- ⑧飲酒習慣スクリーニングテスト（AUDIT）の活用度
- ⑨「節酒」の考え方に基づく保健指導の認知度
- ⑩関係者向け研修会の認知度
- ⑪アルコール関連問題対策についての意見

実施機関：一般社団法人福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター、福島県

結 果：アルコール関連問題に関するアンケート結果（p. 90～93）参照

3) 福島県精神保健福祉センター主催令和2年度アディクション関連問題に携わるスタッフのためのミーティングへの参加

① 第1回ミーティング

日 時：令和2年7月2日（木） 13：30～15：45

場 所：福島県精神保健福祉センター

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：25名

内 容：依存相談拠点、依存症の方への支援についての情報提供、SAT-G（島根ギャンブル障がい回復トレーニングプログラム）プレ体験、出席者間の連携をはかるためのミーティングが行われた。

② 第2回ミーティング

日 時：令和2年9月3日（木） 13：00～15：45

場 所：福島県精神保健福祉センター

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：30名

内 容：ネット依存（ゲーム障害）の理解と対応について、自殺対策推進センターからの情報提供があった。ミーティングでは、自助グループの紹介や当事者体験談があった。

③ 第3回ミーティング

日 時：令和2年11月5日（木） 13：30～16：00

場 所：至道会 地域交流室（福島市）

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：28名

内 容：更生保護施設の業務説明および再犯防止推進計画について情報提供があった。事例検討では、薬物依存者への対応について検討した。

④ 第4回ミーティング

日 時：令和3年1月7日（木） 13：30～16：00

場 所：福島県精神保健福祉センター

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：34名

内 容：ひきこもり支援センターの取り組み、やっかれん（全国薬物依存症者家族連合会）の活動紹介についての情報提供、アディクション問題への支援（グループワーク）が行われた。

⑤ 第5回ミーティング

日 時：令和3年3月4日（木） 13：30～16：00

場 所：福島県精神保健福祉センター

対 象：アディクション関連問題に携わるスタッフ等

参加者：34名

内 容：依存症治療拠点における対応についての情報提供、依存症と法テラス・弁護士の業務についての講演があった。

5. 課題と展望

本アルコール・プロジェクトが始まって7年目を迎えた。福島県立医大が行っている県民健康調査によると、被災者の中で問題飲酒のリスクがある住民の割合は、男性で20.5%（2012年）から17.2%（2019年）に、女性で10.5%（2012年）から8.2%（2019年）にそれぞれ減少した。私たちのプロジェクトもそのような減少に多少なりとも寄与したのではないかと考えている。

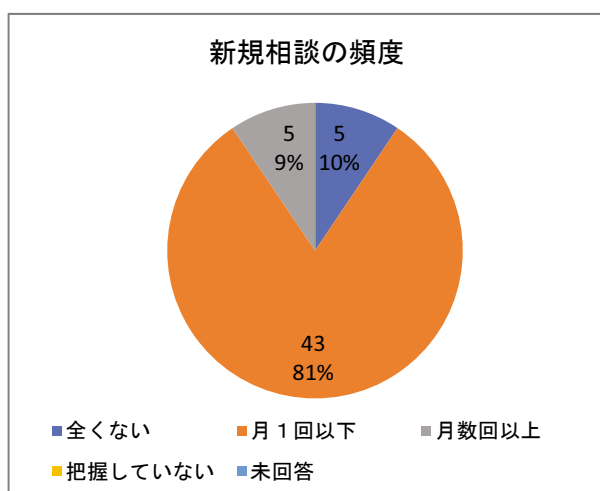
そうしたなかで本年度はコロナ禍の影響が極めて大きく、飲酒量が増えたという報告もあることから、より住民の健康リスク、とりわけアルコール関連の問題が増えるのではないかと懸念されている。またよく知られているように飲酒問題は、最近徐々に増加し始めている自殺にも大きく関連していることがわかっているだけに、一層のアルコールに関する啓発活動や予防活動を充実させなければならない。残念ながら未だにコロナ禍の終息は見えておらず、市町村と連携しながら、我々の活動を展開する必要がある。

アルコール関連問題に関するアンケート結果

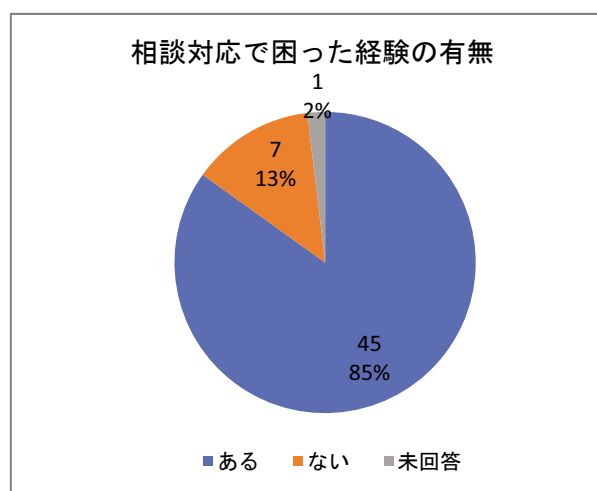
■回答市町村数 53 市町村

■回答率 90%

1. ここ3年間程度の傾向として、アルコール関連問題を抱える本人もしくは家族等(支援関係者含む)からの新規相談はどの程度ありますか？

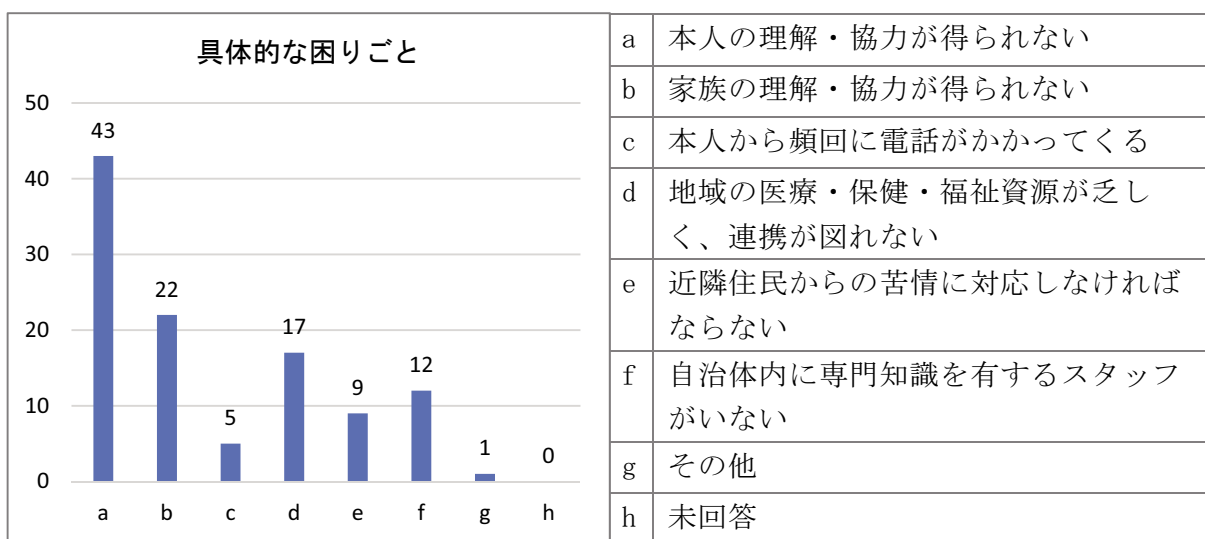


2. ここ3年間程度の保健活動の中で、アルコール関連問題の相談対応で困った経験がありましたか？

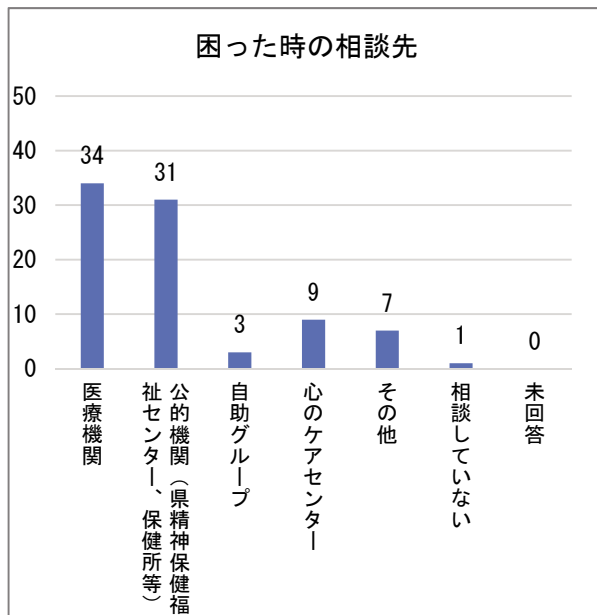


3. 2で「ある」と回答させた場合、以下について教えてください。

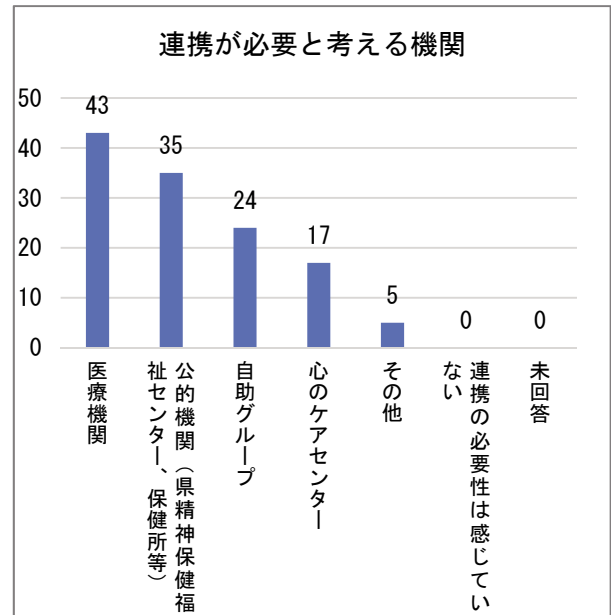
- ① どのようなことで困りましたか？(複数回答可)



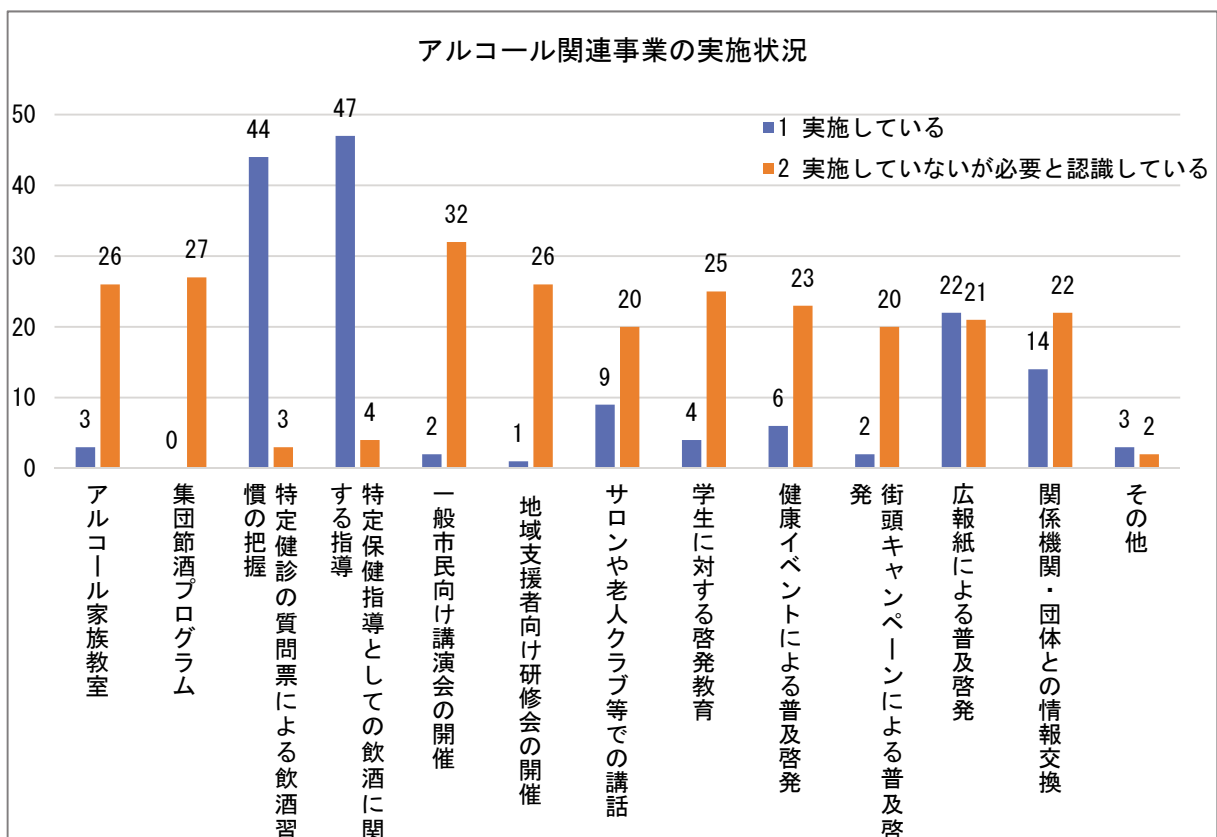
② 困った時、どこかに相談をしましたか？（複数回答可）



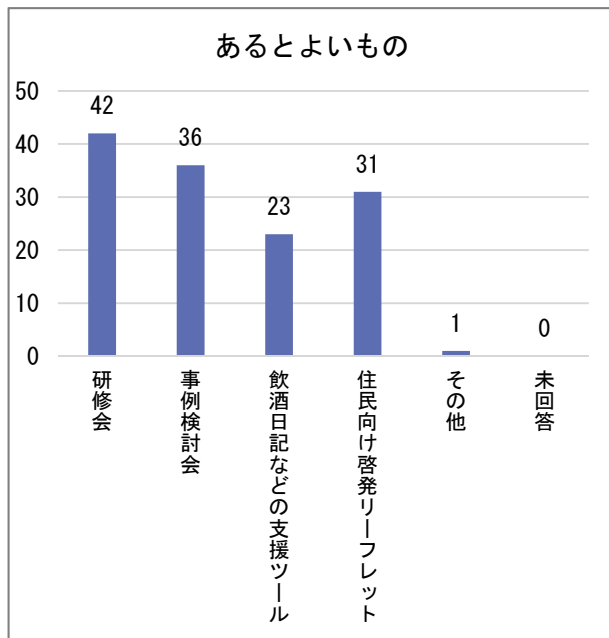
③ 今後、連携が必要とお考えの機関はありますか？（複数回答可）



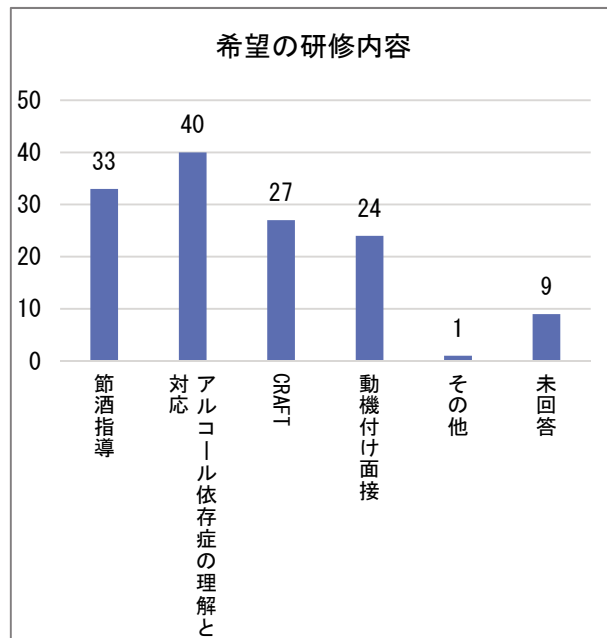
4. ここ3年間で、貴自治体では、アルコール関連の事業を実施していますか？



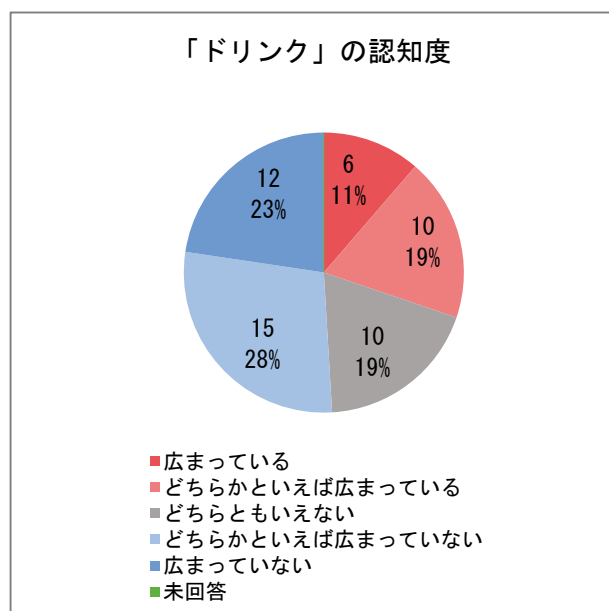
5. アルコール関連問題の相談対応や普及啓発を行う上で、どのようなものがあるとよいですか？（複数回答可）



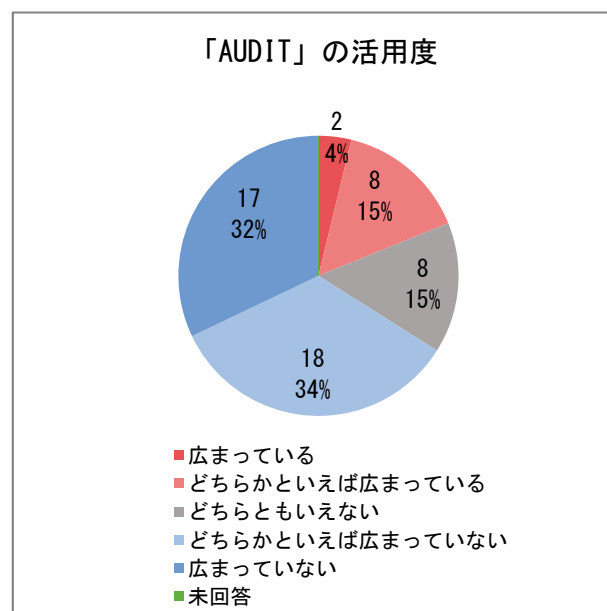
6. 5で「研修会」を選択された場合、どのような内容の研修会があるとよいですか？（複数回答可）



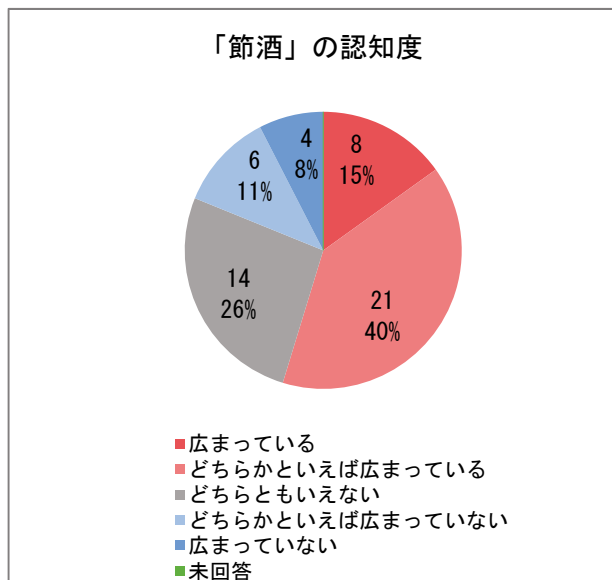
7. 貴自治体保健師の皆さまに、「ドリンク」というお酒の概念（単位）は広まっていますか？



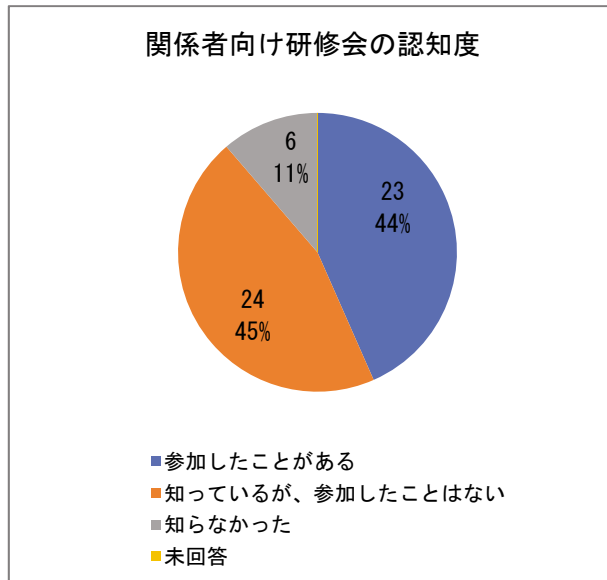
8. 貴自治体の保健活動において、飲酒習慣スクリーニングテスト（AUDIT）の活用は広まっていますか？



9. 貴自治体の保健活動において、「節酒」の考え方に基づいた保健指導は広まっていますか？



10. 毎年、ふくしま心のケアセンターが「関係者向け研修会」を開催していることをご存知ですか？



11. アルコール関連問題対策についてのご意見がございましたらお聞かせください。

【一部抜粋】

- ・ アルコール依存の方が通院治療できる専門医療機関が少ないうえに遠方な地域にとっては、大変治療継続が困難です。そのような方の受け皿が身近にあると大変助かります。
- ・ 酒気帯び状態では、医療機関へ結びつけることが難しい。警察等関係機関との連携した受診勧奨のフローチャートが欲しい。コロナ禍による失業・自宅待機者が増えると、アルコール問題で悩んでいる家族は多くなると思われるため。
- ・ 医療機関の協力を得ることが難しい（特に内科）場合のケース対応に苦慮している。
- ・ 参考になる研修で研修会を開催していただいています、なかなか参加できない状況です。過去に行った研修会の内容を気軽に調べることができるとありがたいです。通信などで、アルコール指導のポイントなどを簡単に紹介いただけるとイメージがしやすいかと思います。